



# 只見町ブナセンターだより

## 【次回企画展】

## 只見の天然資源とその利用

2014年10月25日(土)～12月28日(日)



生活に必要なもの—食糧、燃料、住居や日用品の材料など—を、野山から集めて来る暮らしは遠い昔のことだと思いませんか？

只見町では、つい最近まで生活必需品の多くを天然資源でまかかってきました。今でも、細々とではありますが、そんな暮らしは続いています。

ゼンマイやワラビといった山菜を山から採ってくるだけではありません。山深く、雪深い只見では、周囲との交流は限られたものでした。先人達は工夫を重ねて、山からの幸を加工して衣食住に用いたのです。そんな豊かな文化を紹介します。

## 【次回ブナセンター講座】

## 古民家解体から見えてくるもの

2014年11月8日(土) 13:30～15:00

講師：奥 <sup>ひろかず</sup> 敬一氏 (富山大学芸術文化学部准教授)

1960年代まで、京都丹後半島には、伝統的な木造家屋(丹後型民家)が多数残されていました。こうした家屋も、その維持管理の難しさや生活・居住環境の変化の中で、次々と打ち捨てられ、解体され、その数は激減してしまいます。

今回講演いただく、富山大学の奥敬一氏らの研究グループは、この古民家の一つを解体調査し、その建築様式やそこに使われた木材、その他建築資材を克明に記録、解析しました。その結果、そこに住む人々と周辺の山林原野(里山)との深い結びつきが、浮き彫りにされてきました。

この講演を通じ、只見地域に今も多く残される古民家の文化的な価値とその保護のための有意義な情報を知ることが出来ると思います。是非、ご参加ください。

## 【写真教室】

# 猪又かじ子写真教室・秋の布沢集落を撮る



2014年10月26日（日）9：30～15：00

秋色に彩られた山々を背景に布沢集落をのんびり歩きながら思いのままに写真を撮ってみませんか！

撮影した写真は森林の分校にて、みなさんでわいわい鑑賞しながら先生に講評していただきます。ぜひご参加ください。

## 【活動報告】

### ■友の会への企画展説明会・2014年8月10日（日）

現在、企画展『ユネスコエコパークが描く只見の未来』の会期は間もなく終了しますが、会期中に友の会からの依頼を受けて、プナセンターで企画展の解説会を開催しました。プナセンターのセミナー室で友の会会員ら8名に向けて、エコパークの登録前後に考えられてきたこと、考えていかなければならないことについて鈴木館長による講義形式での解説会となりました。

まず、ユネスコエコパークの制度について詳しい説明がありました。只見町が2014年6月にユネスコエコパークに登録された直後に、推進協議会と支援委員会が設立されました。推進協議会は只見ユネスコエコパークの管理・運営を行います。推進協議会を構成するのは只見町と檜枝岐村の役場の関係部署をはじめ、森林管理署や県の関係部署、町の商工会や地区区長連絡会、観光まちづくり協会、婦人会などの24名です。その議決は円卓会議で、全員一致の場合でないと議決されません。

支援委員会は町外の学識経験者などで構成され（現6名、将来的には10名程度）、推進協議会に適切な助言や勧告を行うためのものです。また、ユネスコエコパークに登録されると、ユネスコに10年ごとに報告書を提出が求められます。行程表を策定して、ユネスコエコパークとしての実施事業の達成度を確認する必要があります。

次に、ユネスコエコパーク事業として着手され、進められている事業の紹介がありました。自然観察の森や大曾根湿原の整備、自然環境についての基礎調査として昆虫相の調査、町の公認ガイドの育成、伝統芸能の保存、只見町内の小中学校のユネスコスクールへの加盟などです。また、地域の経済産業を推進する事業も募集しています。

制度は整い、各事業も始動しました。しかし、何よりもこれらの取り組みに対する住民の気持ちが大切です。ユネスコエコパークへの登録は多くの条件を満たさなければ果たせないものでした。登録されたことを誇りとして胸に抱きながら、今後に向けて前向きに考えてみるのが重要です、と鈴木館長は締めくくりました。

## ■「自然首都・只見」展・会津若松市開催 8月27日（水）～31日（日）

8月27日（水）～31日（日）の期間で、「自然首都・只見」展を会津若松市文化センターで開催しました。この展示は、只見町の自然・文化を町内外に広く情報発信し、「自然首都・只見」の理念の理解と共有を進めることを目的として行っています。

今回はそれに加えて、今年6月12日に登録が決定した「只見ユネスコエコパーク」についての紹介を行いました。展示場には、写真入りの解説パネルを展示するほか、昔からの手仕事である“つる細工”などの民芸品や、只見町の天然資源・農産資源を原料に、伝統技術を使って一つ一つ丁寧に作り上げられた“伝統産品”、ブナセンターの発行書籍等も展示しました。来場された方々は、興味深く見て行かれたようです。

30日（土）、31日（日）には、「只見町の自然と暮らし」、「ユネスコエコパーク描く只見の未来」という題で、ブナセンターの職員らによる講演会を開催しました。

全体の入場者は388名、講演会の聴講者はのべ35名で、若松市周辺にお住まいの只見町出身の方、只見町に思い出のある方たちなども足を運んでくださいました。来場者は、只見町の自然環境やブナ林についてスタッフと会話をするなど、懐かしい只見町の風景や民俗文化に触れ、また足を運びたいという声も聞かれました。



### 講演会「只見町の自然と暮らし」8月30日（土）

講演者：渡部はるか（只見町ブナセンター指導員）

8月30日（土）に講演会「只見町の自然と暮らし」を行いました。

只見町は、福島県でも5番目に広い面積を持ちますが、人口は4,575人と少なく、高齢化率43%という、町民のおよそ4割が、65歳以上の高齢者という過疎高齢化の町になります。また、総面積の93%が山林原野で占められ、自然度の高い森林が広い範囲で残されています。そんな只見町では、おじいちゃん・おばあちゃんがとても元気で、豊富な自然資源と豊かな土地を利用した“昔ながらの生活”が現在も根強く残されています。

講演会では、豊かな自然環境とそこに生育する動植物の解説、日本有数の豪雪地帯である只見町の暮らしと、そこに色濃く残る民俗文化を紹介しました。

20名ほどの方に御聴講いただき、聴講された方からは、クマの生態や出没状況等についてなどの質問や、多雪地帯で見られる特異な地形（雪食地形）、除雪用具の“ユキノコ”、冬場の貯蔵庫“ダイコンユウ”などが興味深いといったご意見ご感想があげられました。

## 講演会「ユネスコエコパークが描く只見の未来」8月31日(土)

講演者：新国万寿美（只見町総合政策課）

平成26年6月12日、只見町全土と檜枝岐村の一部を含む78,032haが「只見ユネスコエコパーク」に登録されました。講演会では只見町がユネスコエコパークを推進してきた背景や、制度の特徴などを紹介しました。

ユネスコエコパークはユネスコ（国連教育科学文化機関）が行うMAB（人間と生物圏）計画の中の事業であり、貴重な自然環境の保護・保全と、天然資源の持続可能な利活用による地域振興を目的とした制度です。簡単に説明すると「人と自然との共生を実践するモデル地域」ということとなります。現在、世界中で119ヶ国、631か所、日本国内では7か所が登録され、その数は年々増加しています。今回の登録は自然とともに生きてきた只見町の生活が世界に認められたこととなります。

これからは住民自らが主体となって自然を守り、自然と共生する暮らしを後世まで伝えていくことが大切です。自然や文化など様々な価値を有効に活用し、自然と共生する関係を築き上げることが「只見ユネスコエコパーク」として、只見町の活性化につながります。少し難しい内容となりましたが、聴講された皆様からは、ユネスコエコパークに関連する具体的な事業内容や、自然保護と活用をどう両立するのかと言った質問があげられ、有意義な講演会となりました。

### ■ブナセンター講座

〈南アルプスユネスコエコパークの概要と将来への展望〉9月27日（土）



南アルプスユネスコエコパークは、只見ユネスコエコパークと同時の今年6月に登録になりました。登録にあたりご尽力された増澤武弘氏（静岡大学理学部特任教授）をお招きし、南アルプスユネスコエコパークの現状についてご講演いただきました。町内外から14名のご参加がありました。

南アルプスが只見と大きく異なる点は、その規模にあり、静岡県、山梨県、長野県の3県10市町村およそ100万人が含まれています。南アルプスでは、3000m級の山々が連なる山岳地帯が核心地域（保護・保全される地域）に指定されています。

澤氏は、長年、山岳植物の研究をされており、核心地域に生育する植物の調査研究とその保全対策について、特にお話してくださいました。峰に広がるお花畑や希少植物、氷河に削られた岩石が生み出す特異な景観などたくさんの写真を見せていただき、南アルプスユネスコエコパークが守っていく自然の魅力を感じることができました。しかし、ここ10数年でシカやサルにより高山植物が食い荒らされる被害がでているため、景観を壊さない防獣ネットを開発したということです。また、人による盗掘も多く、対策として、栽培方法を確立して園芸植物として希少種を流通させることで、商業価値を下げる工夫を行っているということでした。

南アルプスでは、どの頂も人里から2日かかるほど遠く、ユネスコエコパークに含まれる住民ですら時々しか南アルプスを見ることできないそうです。認知度を上げること、行政間で情報共有すること、地域振興に地元住民がどう関わっていくかが今後の課題だと教えていただきました。只見ユネスコエコパークと南アルプスの違いから、只見ユネスコエコパークと只見町の特色を改めて知るよい機会となりました。

## ■秋の自然観察会

〈沼ノ平のブナ林を歩く〉 9月28日（日）

澄み渡る青空のもと素晴らしい登山日和に恵まれ、沼ノ平の観察会が行われました。通常はガイド同伴で入山するコースとなっていますので、ご参加のみなさんの期待も大きかったと思います。

町内、町外合わせて17名の方にご参加いただきました。前日の講演会「南アルプスユネスコエコパークの概要と将来への展望」の講演者である増澤先生も同行してくださり、館長とともに解説をしていただき充実の観察会となりました。

登山口からはゆっくりとしたペースで登り、途中に八十里古道やブナの二次林などの解説を挟みながら1時間半ほどで大きな杉のある山神杉に到着しました。ここから先はブナの巨樹が立ち並ぶ原生林となります。伸びやかなブナの森を歩いているとみなさんの顔からも自然と笑みがこぼれていたように思います。

しばらく森を満喫すると、このコースの最大の難所である小三本沢の渡渉へと続きます。幸いにも天気が良いので水量が少なく、参加者の方々のご協力もあり行き帰りともに無事に渡ることができました。ここから先の沼ノ平は、3年前の豪雨災害の影響で地形が変化した箇所もありますが、それも自然の力ということで興味深い観察ができたと思います。

参加者の方からは良かったとの声が多く聞かれ、天候に左右されることの多いこのルートですが、今回は大満足の秋の一日となりました。



## 【ブナセンター出版のブックレットの紹介】

ブナセンターでは手のひらサイズのブックレット「企画展解説シリーズ」を7冊と「只見町フィールドガイド」3冊を出版しています。

企画展解説シリーズは過去に行ってきた只見町ブナセンターでの企画展についてまとめたものです。只見町フィールドガイドは只見町に咲く花や巨樹・巨木、水生生物などを紹介しています。只見町の豊かな自然環境について様々なテーマごとにまとめた冊子ですので、フィールドを歩く際のお供にいかがでしょうか。

こちらはブナセンター館内で、1冊500円で販売しております。お越しの際にはぜひ一度手にとってご覧になってください。

### ●企画展解説シリーズ

1. 只見の自然を食べる
2. つる植物の生態と利用
3. 「自然首都・只見」  
只見町の自然と暮らし
4. あがりこの生態と人々の関わり
5. 水辺林の不思議な世界
6. 只見の自然に生きる！只見の野生動物とその生態
7. 絶滅危惧種ユビソヤナギのすべて  
一国内最大の自生地の全貌を紹介



### ●只見町フィールドガイド

1. 登山道で出会う花  
雪解けから初夏の花44種
2. 只見の巨樹・巨木
3. 夏から秋に咲く花
4. 只見の川と水辺の生き物たち

## 【新着資料の紹介】

ブナセンターにはたくさんの動物標本が展示されていますが、そのほとんどは町民から寄贈していただいた物または借用物です。今年7月から9月には、4件23体の鳥類・哺乳類の剥製を寄贈いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

寄贈いただいた剥製は、台座を整えて展示できるようになり次第、展示します。なお、民具につきましては、この4月より教育委員会で登録及び記録していただくことになりました。今後も、貴重な只見町の資料の保存・管理に努めていきますので、皆さまのご協力をお待ちしております。

### 2014年7月から9月に寄贈いただいた剥製

鳥類：ヤマセミ 1、アカショウビン 1、ヤマドリ（メス）3、（オス）1、チャボ（オスメス各1）2、カルガモ 4、オシドリ（オス）2、カケス 1、フクロウ 1

哺乳類：ムササビ（バンドリ）2、タヌキ2、イタチ1、リス2

2014 年度購入剥製（町内で採集した死体を剥製にしています）

メボソムシクイ、カルガモ、ショウタキ、フクロウ、イタチ、アナグマ各 1 体



ヤマセミ



ムササビ

## 【連載：世界の BR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No.1】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、119 カ国に 631 の BR があります。海外の BR をシリーズで紹介します。

2014 年 6 月に只見町や南アルプスと同時に海外では 11 の地域が BR に登録されました。今回はそのうち 1 つを紹介します。

### ●Bosque Seco (エクアドルのボスケ・セコ)



エクアドルの南西部に位置する 50 万 ha におよぶ BR です。

エクアドル国内は、乾性林の低木林が広がりますが、その中でもよく保全された森林です。南アメリカ固有の鳥が多数います。他に、アメリカワニやサルなどの固有種が数多く生息しています。

この地域の人口は 10 万人以上で、主要な産業は家畜の飼育と農業（コーヒー、果物、トウモロコシ）です。

\*この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各 BR の写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

## 【今後の活動予定】

### ■2014 年度只見町ブナセンター年間行事予定

開催時期	行事名	備考
7月26日(日)～ 10月13日(月)	企画展 ユネスコエコパークが描く只見の未来	6月に登録が決定された只見ユネスコエコパークについての概要説明と、今後の展望をパネルなどで説明します。
10月26日(日)	写真教室 秋の布沢集落を撮る	講師：猪又かじ子氏（写真家） 撮影地：布沢集落を予定
10月25日(土) ～12月28日(日)	企画展 只見の天然資源とその利用	高い自然度を誇る山林原野が広範囲で広がる只見町では、どのような天然資源の利用が行われてきたのでしょうか。パネルと合わせて現物展示、解説を行います。
11月8日(土)	ブナセンター講座 古民家解体から見えてくるもの	講師：奥敬一氏 (富山大学)
11月22日(土)	秋の料理教室 只見のそばを食べよう！	講師：平出美穂子氏 只見町で採れたそば粉をつかって、色々な蕎麦料理に挑戦します！
1月～3月	企画展 只見地域における鳥類の分布と生態	只見町に生息する鳥類を、パネルで解説する他、写真と剥製の展示を行います。
1月か3月を予定	ブナセンター講座 只見地域の森林の鳥類	講師：上田恵介氏 (立教大理学部生命理学科教授)
1月か3月を予定	自然観察会 冬のブナ林を歩く	観察地：下福井地区、楢戸地区を予定
冬季予定	ブナセンター講座 ニッコウイワナの生態と保護	講師：未定
冬季予定	自然観察会 身近なブナ林を歩く	観察地：未定

## 【編集後記】

ブナセンターの窓から見える浅草岳はだいぶ色づいてきました。頂上付近は黄金色の草原ではないでしょうか。冬に向かう前、秋の只見は本当に美しく彩られます。そんな只見にみなさまぜひ遊びにきてけやれ～！

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



只見町ブナセンター

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

■fax 0241(72)8356 ■E-mail [info-buna@amail.plala.or.jp](mailto:info-buna@amail.plala.or.jp)